

家族で暮らせぬ思い 歌に



再び家族4人が一緒にいられる幸せをかみしめる奈穂子さん（右端）と孝洋さん

福島から旭川に 震災避難者・曳地さんの詩2編

東京電力福島第1原発の事故後、福島県郡山市に夫を残し、旭川市の実家に子供と避難したパート職員曳地奈穂子さん(42)の詩が、札幌平岡高の軽音楽部の生徒たちの手で歌になり、CD化された。曳地さんは「高校生が原発事故や震災を考えたきっかけになっとうれしい」と喜んでる。

奈穂子さんは福島県出身の夫孝洋さん(42)と進学先の帯広畜産大で出会い、2000年に結婚し、長女(8)と長男(5)を授かった。自宅は第1原発から約60キロ離れたが、影響を心配し、震災9日後に母子で自主避難した。

歌になった詩は12年に書いた「ふるさと」と「桜」で、「ふるさと」では福島を離れたことへの心の葛藤をつづり、「桜」では家族と一緒に桜を見られない切なさ表現。これらは13年、道内避難者でつくる「みちのく会」(札幌)編さんの手記で発表した。

CD化は、手記を読んだ平岡高軽音楽部の生徒たちが「被災者を応援したい」と作曲を申し出たのがきっかけ。生徒たちは約1年かけ、オリジナルの曲に歌を吹き込んだCDを完成させた。タイトルは「Chai engine for your smile II」とした。「ふるさと」(5分14秒)を担当した3年生の渡辺萌さん(17)の父の実家は仙台市。震災を身近に感じているだけに「多くの人に届くよう願いながら作った」と語る。「桜」(5分20秒)を担当した同池原愛

札平岡高生作曲、CD化

「桜」の歌詞

小さいさかいが 大きな溝になることは
わかっているのにね すれ違ってしまう
二人が大事にしているものは 同じはずなのに
そばにいないことはこんなにも 分かり合えないものなの？
桜 ここではまだまだ咲かなくて 緑だけがざわめいて
あなたが住む場所はまだ 桜色で溢れるのに
桜 あなたが好きなこの花たちを 一人じゃ愛でられないでしょう
そんなことまでわかるのに どうして優しくできないの
離れていることを 言い訳にしてしまうことは
何より簡単で 何より切ない
二人が大事にしているものは 同じはずなのに
そばにいないことはこんなにも 分かり合えないものなの？

桜 ここではまだまだ咲かなくて つぼみもまだついてなくて
あなたが住む場所はもう 花びらの雨が降るのに
桜 あなたが好きなこの花たちを 一人じゃ愛でられないでしょう
そんなことまでわかるのに どうして優しくできないの
ほんの少しの隙間 埋めなければ 一緒に見る日が来ないことも 十分わかっているの
桜 ここではまだまだ咲かなくて つぼみもまだついてなくて
あなたが住む場所はもう 花びらの雨が降るのに
桜 あなたが好きなこの花たちを あなたと共に愛でたいの
そんな想いを伝えよう 桜の花咲くその前に

香さん(17)は「家族一緒の生活を願う詩の言葉一つ一つが心に染みだ」。現在、奈穂子さんの夫孝洋さんは14年6月、福島での仕事を辞めて旭川に移り

再就職も果たした。奈穂子さんは、再び家族4人での暮らしを取り戻したものの「まだまだ離ればなれの避難者も多い」と他の家族を思いやる。CDは1枚100円。震災避難者が運営する旭川の喫茶店「みちカフェ 匠乃施呂」(2の7)で販売し、売り上げはみちのく会旭川支部に寄付する。(榎木野寛)